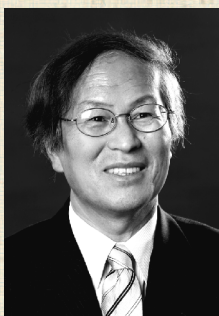


仙台・亶理と伊達市との連携を強める

# 第3回 学術交流連携講演会

東北大学東北アジア研究センター・伊達市噴火湾文化研究所



東北アジア研究センター

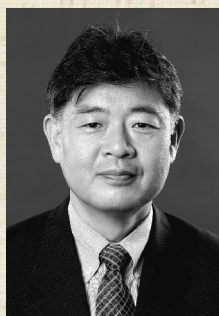
磯部 彰 教授

〈講演概要〉

このたびの講演では、まず唐代初めの玄奘三蔵のインド旅行がいかに伝説化され、そして物語化されたについてふれ、後世の『西遊記』との関係について話をします。次に、鎌倉時代、唐三蔵西天取経ものがたりを愛した京都の高山寺の明恵房高弁（明恵上人）に焦点を当て、明恵上人が読み聞きをした三蔵法師の伝説や仏教説話を通して、混乱した世に生きた一人の宗教者のあり方を紹介したいと思います。

講演2

— 日本と中国・朝鮮半島の心の交流 —  
**明恵上人と西遊記物語**



東北アジア研究センター長

佐藤 源之 教授

〈講演概要〉

東日本大震災では亶理町を含む太平洋沿岸地域の津波被害が甚大でしたが、レーダーやリモートセンシング技術を使った早期の広域被害調査が行われました。私達は電波を利用して津波被害や地滑りを離れた場所から測定するレーダー装置を開発し、防災・減災に役立ててきました。

一方、こうしたレーダー技術は地中の可視化にも利用できるため、多くの遺跡調査への利用も行ってきました。津波被害を軽減するため、住宅の高台移転が検討されていますが、それに伴う遺跡調査にも利用を予定しています。この講演では、東日本大震災で電波科学がどのように利用されたかの実例について紹介し、合わせて松島瑞巖寺、奈良東大寺などで行った遺跡調査から今後の展望についても解説します。

講演1

— 防災・減災技術と遺跡調査への応用 —  
**震災と電波科学**



入場  
無料

日時／平成24年3月18日(日) 15:00~17:00

会場／だて歴史の杜カルチャーセンター2階 視聴覚室

主催/伊達市噴火湾文化研究所・東北大学東北アジア研究センター  
お問い合わせ/伊達市噴火湾文化研究所 TEL0142-21-5050